

美濃いび茶 二番茶も高値

揖斐川町で初共販会

揖斐川町と池田町で生産されるブランド茶「美濃いび茶」の二番茶の初共販会が3日、揖斐川町極楽寺のJA全農岐阜美濃茶流通センターで行われた。世界的な抹茶ブームもあり、近年は二番茶も高値で推移。1キロ当たりの平均落札価格は昨年の1・6倍となる1713円だった。2年前の約

3倍で、一番茶に迫る価格となっている。美濃いび茶は両町の特産茶で、昼と夜の寒暖差と朝霧で良質な茶葉が生産されている。4月の一番茶の平均落札価格(1キ)は、昨年より約500円高い2522円だった。全国農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)の

担当者によると、海外での抹茶ブームを受けて茶葉の価格が上昇傾向にあり、品薄状態が続いている。一番茶の流通量が十分ではないため、二番茶への需要も高まっているといい、平均落札価格(1キ)は2024年が524円、昨年は1069円だった。

この日は2035キが出品され、茶商たちが茶葉を手にとったり、飲み比べたりして、香りや品質を確かめていた。最高価格は1キ1812円だった。

長柄澄男共販委員長は「一番茶、二番茶と高値で落札してもらえるのは生産者として大変ありがたい。これから出荷するお茶もあるのでぜひ楽しみにしてほしい」と話した。共販会は10日も行われる。

(湯浅裕作)

二番茶を吟味する茶商＝揖斐川町極楽寺、JA全農岐阜美濃茶流通センター

